

[野菜部門 令和7年度 参考となる研究成果]

事 項 名	いちご「すずあかね」の夏秋どり高設栽培の栽培管理方法と収量性		
ね ら い	いちご「すずあかね」の夏秋どり作型で、かん水施肥する高設栽培について、栽培管理方法と定植時期別の収量性を明らかにしたので参考に供する。		
内 容	<p>1 栽培管理方法（表1、表2）</p> <p>(1) かん水は、収穫開始花房出蕾期以降、早朝に1度目を行い、その後、培地表面の乾きや、植物体のしおれが確認される場合に午前中2～3度目のかん水を行う。</p> <p>(2) 1回当たりのかん水量は、プランター下部から排水がしたたる程度を目安とする。午後のかん水は極力控える。</p> <p>(3) 施肥は、収穫開始花房出蕾期～8月末までEC0.6dS/m、9月～収穫終了までE0.3 dS/mで行う。</p> <p>(4) 芽数は、3芽程度を確保する。</p> <p>(5) 上記(1)～(4)までの管理により、草高14 cm～18 cm、葉柄長10 cm～12 cm、葉身長7 cm～8 cm、小葉幅5～7 cmを確保する。</p> <p>2 その他栽培上の留意事項</p> <p>(1) 冷蔵裸苗を直接定植する場合、定植～1週間は根と培地が密着するように株元に原水でかん水を行い早期の活着を促す。</p> <p>(2) 白ろう果や割れ等の果実品質低下時は、積極的に培地をクリーニングする。</p> <p>3 収量性（表3、表4、図1）</p> <p>(1) 3月定植の全果収量は、920g/株を超え11月まで安定して収穫が可能で、商品果収量は700g/株以上で、単収は4.1t/10a程度となる。</p> <p>(2) 5月定植の全果収量は、570g/株程度で11月の収量が最も多くなり、商品果収量は470g/株以上で、単収は2.8～2.9t/10aとなる。</p> <p>(3) 現地実証の収量は3月定植と5月定植を組み合わせることで秀優品出荷数量の月別割合が3か年とも安定した出荷が続き、販売単収は3か年ともに5 t/10 aを超えた。</p>		
期待される効 果	夏秋いちご高設栽培の安定多収生産が期待できる。		
利 用 上 の 注 意 事 項	<p>1 青森農総研型いちご高設栽培で行った結果である。</p> <p>2 定植～収穫開始花房出蕾期及び栽培管理の共通事項は、令和7年度参考となる研究成果「自作できる青森農総研型いちご高設栽培ベンチの構成とかん水・施肥方法」を参考にする。</p>		
問 合 せ 先 (電話番号)	農林総合研究所 花き・園芸部 (0172-52-4341)	対象地域 及び経営体	県内全域の夏秋いちご作付経営体
発表文献等	令和4～5年度 農林総合研究所試験成績概要集		

【根拠となった主要な試験結果】

表1 かん水及び施肥方法が収量に及ぼす影響 (令和5年 青森農総研)

かん水方法	給液方法 前半-後半 (dS/m)	収量 (g/株)									商品果率 (%)	10a換算 (t/10a)
		6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計			
終日	0.3-0.6	全果	1	141	274	86	161	156	46	866	64	5.1
		商品果	1	134	182	43	110	71	14	555		3.2
	0.6-0.3	全果	0	132	278	112	134	149	48	855	63	5.0
		商品果	0	124	182	58	94	67	11	537		3.1
朝方	0.3-0.6	全果	2	145	255	113	113	126	44	797	62	4.6
		商品果	2	138	162	57	76	53	12	498		2.9
	0.6-0.3	全果	0	172	315	140	142	133	43	944	64	5.5
		商品果	0	156	210	70	90	65	10	601		3.5

(注) 1 給液方法及び商品果収量は表1と同様。
2 かん水方法は、終日かん水は5:00から2hおきに17:00まで7回、朝方かん水は5:00と11:00の2回。

表2 定植月及び施肥方法が生育に及ぼす影響 (令和4年 青森農総研)

調査項目	3月定植 調査日	給液EC (dS/m)		5月定植 調査日	給液EC (dS/m)	
		前半-後半			前半-後半	
		0.6-0.3	0.3-0.6		0.6-0.3	0.3-0.6
芽数 (個)	7/1	3.1	2.7	7/5	1.4	1.3
	8/10	2.9	3.0	8/7	1.6	1.9
	9/11	3.2	2.8	9/18	2.9	3.1
	10/27	2.7	2.9	10/31	2.6	2.9
	12/7	3.4	3.1	12/7	2.7	3.0
草高 (cm)	7/1	20.1	18.5	7/5	14.5	14.0
	8/10	17.9	17.9	8/7	17.8	19.0
	9/11	13.9	15.8	9/18	16.4	16.4
	10/27	11.4	12.8	10/31	14.4	15.9
	12/7	8.5	9.3	12/7	10.2	12.0
葉柄長 (cm)	7/1	13.0	12.1	7/5	8.2	8.3
	8/10	14.1	12.9	8/7	10.0	11.3
	9/11	12.2	11.2	9/18	12.5	13.1
	10/27	8.9	7.8	10/31	10.5	12.0
	12/7	7.6	8.1	12/7	9.8	11.2
葉身長 (cm)	7/1	8.1	8.0	7/5	9.8	10.0
	8/10	7.0	6.7	8/7	8.7	8.3
	9/11	6.1	5.9	9/18	6.9	6.7
	10/27	5.8	5.7	10/31	7.1	7.4
	12/7	4.4	4.9	12/7	5.9	6.3
小葉幅 (cm)	7/1	6.4	6.4	7/5	8.4	8.5
	8/10	5.6	5.3	8/7	7.0	6.7
	9/11	4.9	4.8	9/18	5.7	5.4
	10/27	4.6	4.6	10/31	5.7	5.6
	12/7	3.9	4.3	12/7	4.9	5.3

耕種概要 (表1、表2、表3)

- 1 調査場所：農林総合研究所
- 2 供試品種：「すずあかね」
- 3 育苗方法：前年採苗の冷蔵裸苗（ホクサン社から送付）
- 4 栽培様式：青森農総研型いちご高設栽培
- 5 定植日：令和4年3月17日、令和4年5月22日、令和5年4月5日
- 6 栽植様式：株間28.5cm、条間20cm、2条千鳥植え、畝幅（ベンチ間隔）120cm、5,833株/10a
- 7 環境制御：ハウスサイド自動開閉制御（春、秋季10℃設定、夏季常時開放）、無加温、CO₂施用無
- 8 培地量及び素材：4.28L/株（1プランター7株当たり培地量30L）

(注) 1 給液方法は表1と同様。

表3 定植月と施肥方法が収量に及ぼす影響 (令和4年 青森農総研)

定植	給液方法 前半-後半 (dS/m)	収量 (g/株)									商品果率 (%)	10a換算 (t/10a)
		5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	合計			
3月	0.6-0.3	全果	1	123	185	231	125	106	154	926	76	5.4
		商品果	1	123	163	140	71	77	124	700		4.1
	0.3-0.6	全果	3	131	163	227	162	86	153	925	77	5.4
		商品果	3	129	142	146	95	62	133	710		4.1
5月	0.6-0.3	全果	-	-	1	111	124	132	201	569	83	3.3
		商品果	-	-	1	90	96	109	177	474		2.8
	0.3-0.6	全果	-	-	0	92	106	115	258	571	86	3.3
		商品果	-	-	0	81	83	100	228	492		2.9

(注) 1 給液方法は、前半が収穫開始花房出蕾期～8月末、後半が9月～収穫終了。
2 商品果収量は、6g以上の市場出荷規格に準じて集計した。

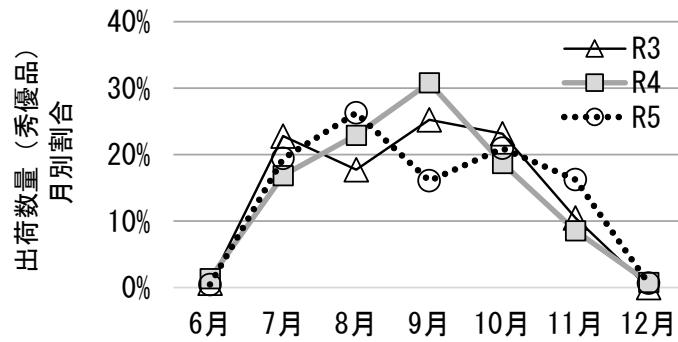


図1 現地実証の出荷数量の月別割合 (令和5年 青森農総研)

表4 現地実証の販売収量 (令和5年 青森農総研)

栽培年度	栽植株数 (株/10a)	収量 (g/株)	単収 (t/10a)
R3年	4,736	1,075	5.09
R4年	4,723	1,168	5.52
R5年	4,736	1,105	5.24

耕種概要 (図1、表4)

- 1 調査場所：弘前市現地圃場
- 2 供試品種：「すずあかね」、前年採苗の冷蔵裸苗 (ホクサン社から送付)
- 3 栽培様式：青森型いちご高設栽培
- 4 定植日：R3年3月21、22日及び5月8日、R4年3月19、21日及び5月15日、R5年3月15、16日及び5月13日
- 5 栽植様式：株間28.5cm、条間15cm、2条千鳥植え、畝幅 (ベンチ間隔) 120cm、5,833株/10a
- 6 環境制御：ハウスサイド自動開閉制御 (春、秋季10℃設定、夏季常時開放)、無加温、CO₂施用無
- 7 培地量：4.28L/株 (1プランター7株当たり培地量30L)